



世界の合唱

甲南女子大学教授／世界合唱連合理事
洲脇光一

今、世界合唱の動向を最も良く伝えてくれるのが世界合唱連合 (International Federation for Choral Music) の活動であります。これは1982年ベルギーのナミュールで北米合唱指揮者協会、南米合唱指揮者協会、北欧合唱協会、欧州青少年合唱連盟、ヨーロッパ・カンタート、そして全日本合唱連盟の6団体が提唱し、33ヶ国が参加、結成されました。その目的は1) 世界の合唱音楽に関わる団体または個人の協力関係の促進。2) 合唱団組織のない国々、諸地域で合唱組織体創設への奨励。3) 合唱団、指揮者、作曲家、合唱音楽を専攻する学生のための世界的交流プログラムを促進し奨励する。4) 合唱祭、講習会、コンクールの開催。5) 合唱作品のリサーチ、レコーディング、合唱資料の流布。6) 音楽教育における合唱の情報交換であります。具体的な活動としては1) 合唱センターの創設、2) 合唱シンポジウムの開催、3) 世界青少年合唱団 (WYC) の創設、4) 機関誌 (International Choral Bulletin) の発刊、5) 合唱楽譜の収集 (Musica International)、6) 合唱音楽のインターネット (Choral Net)、7) 合唱指揮者のマスタークラス、と各種講習会、8) 合唱楽譜 (Cantemus)、CDの出版、また世界合唱音楽家、団体の名簿 (World Choral Census) を発行しております。発会後この18年間に参加国は80ヶ国を超え、現在世界を5地区（北米、南米、ヨーロッパ、アフリカ、アジア、南太平洋）に分け活動を展開しております。それでは具体的な活動を紹介します。

世界合唱センター

1990年ベルギー・ナミュール市が、市の中心に位置する丘の城跡の中に元青少年会館であった瀟洒な建物をIFCMと地元フランス語圏の合唱連盟のために無償で提供、International Center for Choral Music (ICCM) が誕生しました。当初は正にIFCMのメインオフィスであり合唱楽譜のライブラリーと講習会等の会場とし出発しましたが昨年(1999年)新たにスペインのアルデア市の厚意によりユネスコの国際音楽センター、ジュネス・ミュジカルと共にIFCMの国際センターが同市に開設されIFCMの事務所としてアルタ機能なナミュールは青少年合唱団活動とライブラリーとして使われております。

合唱シンポジウム

IFCMの中心的活動の一つで、1987年第1回シンポジウムがウィーンで開催されました。合唱に関わる者にとってこれほど魅力的な会合は他に無いと思います。世界

今日の合唱活動—その現状と課題



各地より集まったプロ、アマを問わず、合唱団、合唱指揮者、作曲家が一堂に会し、アカペラ・コーラスから大シンフニーとの共演、講習会が一週間続くものであります。3年に一度開催されこれまで第2回スエーデン、3回カナダ、4回オーストラリア、5回オランダで開催、毎回その参加国数は増え、最近ではアフリカ、中東、南米等の参加者が大幅に加わり正に地球規模の会合となってきたのは大きな喜びであります。この素晴らしい行事が3年に一度では少ないとの声から、その中間に地区シンポジウムが開催されるようになっており、来年はアジア・太平洋地区シンポジウムがシンガポールで開催されます。また第6回世界シンポジウムは2002年アメリカ・ミネアポリスでの開催が決まっており、2005年には日本での開催が囁きされております。

世界青少年合唱団（WYC）

このプログラムはIFCMとジュネス・ミュジカルの共同プロジェクトとして1980年より毎年おこなわれておおり、17歳-26歳の団員、約100名が世界各地からホスト国に集まり、2週間の合宿練習、その後2週間の演奏旅行を行うプログラムであります。毎回、世界の優秀な合唱指揮者のもと指導を受け、素晴らしい音楽体験をする中、良き国際交流がなされております。1997年には日本がホスト国となり浜松市の協力の中、東京混声合唱団指揮者田中信昭、スエーデンの合唱指揮者R.ストント氏の指揮のもと練習し感動の演奏会を持ったことが記憶に新しいところであります。

機関誌（ICB）

年4回、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語の4ヶ国で出版され世界80ヶ国で講読されています。内容は合唱音楽に関する、エッセイ、論文、レパートリー、国際ニュース、レコード評論、IFCMよりの案内、そして世界各地で行われる国際的合唱祭、コンクールの紹介であります。この機関誌はIFCMの個人会員となることで手にする事が出来ます。

合唱楽譜の収集

ナミュールの合唱センターには合唱楽譜のライブラリーがあり世界の合唱楽譜が収集されています。全日本合唱連盟も日本の合唱曲を100曲選び、英語訳を付けこのセンターに寄贈しております。ただ年々増える楽譜を全て保管することは困難なため、1983年よりコンピュータに入力、徐々にデータベース化されてきました。昨年そのデーター、71000タイトルをCD-ROMにしたMUSICAを出しております。また、Musica Internationalとしてヨーロッパ、アメリカではインターネットで直接アクセス、データーを引き出すことが出来るようになっております。ホームページのアドレスは<http://www.MusicaNet.org>。



世界シンポジウム／スエーデン ストックホルム
開会演奏会で演奏するエリック・エリックソン室内合唱団とエリック・エリックソン

合唱音楽のインターネット

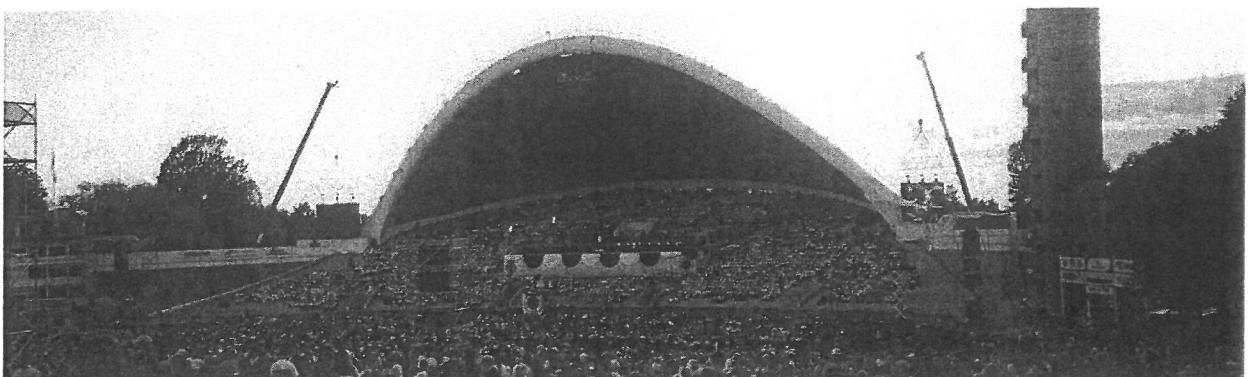
これもインターネットを通じて合唱音楽の情報を公開しているもので、アメリカ合唱指揮者協会(ACDA)とIFCMが共同で運営しております。世界にある、国際又は国内的合唱組織体、各合唱団、出版社等約1000箇所にアクセスすることができます。アドレスは<http://www.choralnet.org>

合唱指揮マスタークラス

IFCMは合唱音楽に関する講習会、セミナー、カ



今日の合唱活動—その現状と課題



1999年エストニア・ソングフェスティバル／2万5千人の合唱と10万人の聴衆／タリン

ンファレンス等を開催しておりますが、中でもこのマスタークラス指揮法講習会は毎年ナミュールの合唱センターを中心に開催され世界各地から集められた若い合唱指揮者を育成する場となっております。

楽譜出版

世界各地で愛唱されている合唱曲を集め、これまでに3冊の合唱曲集Cantemus I(混声)II(女声)III(混声)を編纂、出版しておりこれが合唱曲の国際的交流に大きく役だっております。

以上でIFCMの活動を簡単に紹介致しましたが、次に世界各地で開催されている国内的、国際的合唱祭、コンクール等の一部を紹介致します。先ほどの機関誌(ICB)の最新号にはこれらの行事紹介が79掲載されております。

全米合唱指揮者協会全国大会

開催時期は3月中旬の3日間で隔年、1959年発会、現在会員数18,000人を越える全米合唱指揮者協会(ACDA)は全米を7地区に分け活動、地区大会と全国大会を交互に開催しております。この大会の特色はプロからアマチュアまで、又、学校、教会聖歌隊からバーバーショップ・コーラスまでと巾が広く多彩であることです。ここでは各分野での優秀な合唱団を招待しその演奏を聞く、また指導的合唱指揮者、作曲家によるワークショップで学ぶもので、合唱指揮者にとって必須場となっております。参加者数は会員の半数以上で約6,000人、数年前は参加希望者が多数のため、会期を延長同じプログラムを繰り返したほどであります。時には海外からの招待合唱団もあり国際的な合唱祭といえます。

エストニア・ソング・フェスティバル

開催時期は7月の初旬の4日間で5年毎、首都タリンで、バルト海に面した海岸に3万人が立てる大野外ステージ、客席は10万人が収容出来るソング・グラウンドで行われます。隣国ラトビアも同様のフェスティバルが開催されますが、こちらは首都リガ市郊外の森林に設置された野外劇場で、いずれも19世紀末当時夥しい数の民謡が収集されていたことから、エストニア、ラトビアの作曲家が立ちあがり、これらを合唱曲に編曲、歌い継承する運動としてこの大会が始められました。ソ連邦時代にも自国の伝統行事として途切れることなく続けて来られたものです。昨年エストニアの音楽祭が、またソ連邦崩壊のニュースでラトビアの大合唱がNHKで放映された時、感動を持って見られた合唱愛好家がおられると思います。なんと言つても圧巻は1万人から3万人の大コーラスとその聴取10万人であります。そこでは演奏技量を



超えた歌心、音楽する喜びが溢れておりました。また民族舞踊も同時に演じられ、自国の伝統文化を継承する姿に学ぶところがあります。

ヨーロッパカンタート

ヨーロッパにある幾つかの合唱連盟が各連盟行事を3年に1度合流し開催されるのがこのカンタートで、最も規模の大きい音楽祭であります。個人、合唱団、いずれでも参加が可能で、20-30のアトリエと称するワークショップが開かれ、優秀な指揮者のもと1週間-10日合唱曲を毎日集中的に練習、それを会期中に演奏発表するものであります。今年フランスで開催されるアトリエはシュツ、ガブリエリ、メンデルスゾーン、エルガー、グリーク等の作品が取り上げられております。連日、各合唱団の演奏会と合同演奏会、そして毎晩全員合唱と特別演奏会が開催されます。

合唱オリンピック2000

以上紹介しましたのは、合唱祭、講習会的な合唱行事であります。これ以外に多く開催されますのが、コンクールであります。コンクールはその国、土地柄を反映した、特色のあるものが多く、パレストリーナ、バルトーク、マデトヤ等作曲家名が付くものがあり、それらの作品を中心に行なわれますが、この合唱オリンピックは今年7月、初めてオーストリア・リンツで10日間開催されるこれまでに無く大規なものであります。コンクールは青少年合唱、混声合唱、女声合唱、男声合唱、グレゴリアン・チャント、マドリガル、ジャズ・コーラス、ポピュラー・コーラス等28の部門がありますが、現在の参加数では、児童合唱、混声室内合唱、混声合唱、教会音楽、無伴奏民謡の部が盛況で、今の合唱界の動向を反映していると思われます。このコンクールにたいする関心の度合いは大きく世界各国から2500件の問い合わせがある中、350団体が申し込み、18000人、60ヶ国が参加予定となっております。また同時に合唱シンポジウムも開催されラウンド・テーブルでは世界各地の合唱状況が14名の報告者により語られ、パネル・ディスカッションが行われることになっております。

以上、簡単に世界の合唱活動を紹介致しましたが、20世紀後半の合唱音楽は一言で、スエーデンの合唱指揮者エリック・エリックソンとその合唱団により頂点に達し、このア・カペラ合

唱芸術音楽を世界の合唱団が目標としました。日本の合唱界は合唱コンクールによって技術的には世界的なレベルにまで到達したと言えますが、まだ世界の合唱より学ぶ点があり、日本の合唱音楽が世界的な評価を得るためには国際的交流の場が必要であると思います。



1977年ラトヴィア ソングフェスティバル／1万人の大合唱と5万人の聴衆／ラトヴィア ソグネ